

60 回生 戴帽式

呉看護学校 教員 三宅優子

令和4年10月13日、清秋の候、今年入学した60回生61名の戴帽式が挙行されました。式典の前、女子学生の髪は先輩が編み込み結び上げられます。これは当校の伝統で、先輩から後輩へのお祝いと看護師を目指して共に頑張ろうというエールでもあります。綺麗に結び上げてもらい、学生たちは大変嬉しそうでした。

本年度は感染予防を徹底し、3年ぶりに体育館で保護者の皆様が晴れ姿を見守られる中、戴帽式が行われました。

式典では副学校長と教育主事から男子学生は胸にワッペンを、女子学生はナースキャップを戴き、ナイチンゲール像から看護の灯を受け継ぎました。戴帽開始時、室内は真っ暗でしたが、学生一人ずつが灯を掲げることで少しずつ優しく照らされていき、大変幻想的でした。そして、灯を見つめる学生の表情は清楚で凛々しかったです。

戴帽式は看護を学ぶ者としての自覚を誓い、看護に対する志を新たにするセレモニーです。そこで、60回生全員で考えた誓いの詞を唱和しました。

- 一、60回生は、初心を忘れず、学び続けることを誓います
- 一、患者と家族の心に寄り添い、信頼されるよき看護者になれるよう努力します
- 一、日頃から笑顔を心掛け患者の不安を取り除き、安心を与える看護を行います
- 一、臨床の場で応用できる基礎的知識・技術を身につけます
- 一、視野を広く持ち、迅速な判断・対応ができるように努力します
- 一、仲間とともに支えあい、どんな困難にも協力して立ち向かいます

この誓いを忘れず、患者さんやご家族の灯となれるよう成長することを願っています。

戴帽式後、学生たちは「改めて看護師になるという思いを強くしました。」と引き締まった表情になっていました。これから沢山の経験を重ねていく中、困難にぶつかり挫けそうな時には、今日の戴帽式での気持ちや誓いの詞を思い出し、乗り越えてもらいたいです。

※戴帽式の記事は令和4年10月14日、中国新聞朝刊に掲載されました。

